

東日本旅客鉄道労働組合

東京都渋谷区代々木2丁目2番6号

JR新宿ビル13F 〒151-8512

Tel. 03-3375-5740 (代)

発行責任者 大熊勝明

JR東労組

本部OB会

ニュース

No. 160 2011年8月 発行

退職者連合／結成20周年記念

第15回定期総会が開催される

〔退職者連合・第十五回定期総会／報告〕

眞柄会長勇退・阿部事務局長が新会長に

七月十二日十三時より、都内の「ホテル・ラングウッド」の2階会議室において、退職者連合・結成20周年の記念総会となる「退職者連合第十五回定期総会」が約240名の参加者で開催されました。JR総連OB連絡会からは、川端副会長（JR貨物労組OB会）、鈴木副会長（JR東海労OB会）、伊藤事務局長（JR東労組OB会）、文中幹事（JR西労OB会）、中村幹事（JR貨物労組OB会）の五名が代議員として参加しました。

眞柄会長・万感極まる挨拶で…

定期総会は、今総会で勇退される眞柄会長（全日本自治体退職者会）の民主党政権への厳しい意見と八年間の思いを込めた挨拶で始まり、来賓には、連合の南雲事務局長、民主党の山根参議院議員、社民党の福島党首が見えられ、それぞれの立場から挨拶がありました。

JR総連OB連絡会が堂々の奈

発言は、都道府県退職者連合より、北海道・神奈川・宮崎・沖縄の代議員と、中央単産から全日本水道退職者協議会とJR総連OB連絡会の代議員の六名からありました。特にJR総連OB連絡会を代表して発言した中村幹事（JR貨物労組OB会）は、退職者連合の掲げた「政府に対し、原発に依存するエネルギー政策を抜本的に見直し、国民と共に省エネルギー社会への転換・再生可能な代替エネルギーの開発を促進するよう求める」という脱原発の方針に賛成する立場から「ゴタゴタ続きの民主党に対し、一昨年夏の



発言する中村代議員

会への転換・再生可能な代替エネルギーの開発を促進するよう求める」という脱原発の方針に賛成する立場から「ゴタゴタ続きの民主党に対し、一昨年夏の

総選挙時のマニフェストに立ち戻り、一貫した政治を行なうよう強く要請すると共に、退職者連合にも強い気持ちで脱原発の取り組みを望む」意見を堂々と発表しました。

阿部新会長、大熊氏が幹事に再選

新役員体制は、八年間会長を務められた眞柄氏が勇退され、新たに事務局長だった阿部保吉氏（林野関連退職者の会）が会長になりました。新事務局長にはN.T.T.労組退職者の会の羽山治美氏が就任しました。



退職者連合・新会長に就任した阿部保吉氏

また幹事には、JR総連OB連絡会から大熊勝明氏が再選出されました。高齡化社会が進む中、OB会の社会的任務と責任が高まっています。私達も全国の仲間との絆を強めながら、脱原発、高齡者問題の解決のために、さらに奮闘しましょう。

OB声の広場

人災・福島原発事故を考える

◇ 私はOB会へ加入して四年になります。現在は勝田車両センターで構内運転士を担当しています。主な業務は車両の入区・出区、そして車両の洗浄・転線のための入換作業です。

◇ 三月十一日の東日本大震災の当日、私は業務で職場にいました。地震発生後は職場も大きな被害を受け、外部との連絡が取れず、情報がつかめないまま一夜を明かしました。停電でテレビも見られず、ラジオだけが情報源でした。携帯もつながらない状況が二日も続きました。

◇ 電気・水道等のインフラがある程度回復した後は、今度はガソリンの不足で、給油するのに四時間から五時間もかけ、長蛇の列に並ぶという状況でした。

◇ 水戸地本内では、原ノ町・いわき・茨城地区とそれぞれに被害を受けましたが、とりわけ原ノ町地区は大きな被害を受けました。地本OB会として原ノ町・いわき地区へ向き、支援・激励行動を行ない、改めて被害の大きさに驚きました。

◇ 今回の震災による職場の状況を捉え、水戸地本の大会において原ノ町支部の今後について議論され、原ノ町支部活動の一時休止を受け、原ノ町支部OB会としては今後の活動について地本OB会と議論を行ないましたが、今後も継続して運動を創っていくことを確認しました。

◇ 私の所属する水戸支部OB会も今年の二月に幹事会を開催しましたが、震災以降はなかなか開催されていないのが実情です。日時を設定しても延期になってしまう状況ですが、昨年の再建大会以降、形式にとられずに行なっていくことが大切であり、運動を創っていくことが重要です。

◇ 今後は、田城郁さんを国政に送り出してきたことに踏まえ、五年先の選挙を見据えた取り組みをしていかなければなりません。

◇ そのためにも、まだまだ組織として弱い面もありますが、OB会の組織強化に向け、幹事会が一体となって取り組んでいく決意です。

水戸地本・水戸支部OB会（T・E）

脱原発、職場活動の強化、美世志会の無罪・勝利のため 現役の仲間との交流を積み上げよう！

八王子地本OB会会長 片山 昇

八王子地本OB会は、六月五日、JR八王子クラブにおいて、八名の来賓と役員・代議員・傍聴者五五名の参加をもって、第十四定期総会を開催した。

総会は、先の5・24集会オープニングビデオの放映で、国鉄改革に至る経緯から現在のJR東日本(株)による職場活動規制組織弱体化攻撃の実態を知り、OBとしての憤怒の想いの中、故松崎明氏・角岸幸三氏・柴田光治氏、そして東日本大震災の被災者に対して黙祷を捧げながら開始された。

冒頭、神田会長から民主党政治への不信の念が語られ、東日本大震災によって私達に世の価値観の変更に迫られていること、これからのOB会はエルダー会員が中心になっていかなければならないこと、等が語られた。沼澤副委員長からは、東日本大震災で緊急支援物資の輸送やボランティア活動を担った現役の取り組み、職場管理・規制強化との闘いの報告と、1000回を超えた最高裁に対する口頭弁論開催の要請行動および田城参議院議員の活動を支えるための後援会



八王子地本OB会第14回定期総会／新役員挨拶

加入の協力要請の訴えがあった。また多くの来賓から、脱原発の闘いの重要性、現役組合員との対話の重要性がOBならではの言葉で語られた。

経過報告・活動方針提起後の質疑では、五名の代議員から、①脱原発の闘いの決起、②現役組合員との対話の場の具体化、③職場活動規制に対する怒り、④OB会員同士の連帯感強化のため「楽しいOB会」を目指そう、などの発言があった。

事務長の一括答弁では、①OB会として改めて反原発の闘い(行動)を実践していくこと、②職場活動の規制に対しては、OB会員と現役組合員の対話を通して労働組合の活動拠点はあくまでも職場にあることを知ってもらわなければならない、③エルダー連絡会の結成を早期に実現すること、④年金・医療・介護などのOB会独自の課題も積極的に取り組んでいくこと、⑤OB会員間の連携を深めるために「楽しいOB会」の活動を創り出していくこと、などが確認された。

その後、「反原発・原子力発電からの脱却と新たな原子力発電所の建設に反対する決議」を採択し、新役員承認、総会宣言を採択し、片山新会長による団結カンパニーを三唱して成功裡に閉会した。

第一部の懇親会では、久々に顔を合わせた仲間が現役時代の話や「今の世の中、何か間違っている」など、話に花が咲き、九月開催予定の八王子地本OB会レクで再会することを約束して散会した。

二〇一一年度の新役員は、次の通りです。

- 顧問 神田正種 (立川支部)
- 会長 片山昇 (八王子支部)
- 副会長 中澤千尋 (甲府支部)
- 副会長 味原進 (八王子支部)
- 事務長 沼波修司 (立川支部)

千葉地本OB会 第14回定期総会

脱原発と支部OB会の結成・強化を意思統一！

千葉地本OB会は、7月16日、千葉市生涯学習センターにおいて、第14回定期総会を開催しました。総会には、来賓を含め、総勢40名を超えるOB会員が参加し、東京や横浜地本の所属で千葉県在住のOB会員にも参加して頂き、昨年に引き続き、盛り上がった総会になりました。



総会は、齋藤副会長の司会で始まり、冒頭、東日本大震災の被災者並びに昨年末から今年にかけて逝去された松崎初代委員長・柴田JR総連元委員長・角岸JR東労組元委員長のご冥福を祈り、黙祷を捧げました。議長に原良助さんを選出し、議事が進められました。

田代OB会長は挨拶の中で、昨一年間の東日本大震災の義援金の取り組みを始め、地方統一選挙におけるOB会員の協力・支援に感謝の言葉を述べ、この一年間で成田・津田沼・木更津支部にOB会を確立して、当面する脱原発、被災地の復興支援、エルダー問題にも積極的に取り組んでいく決意を表明しました。

質疑では、①互助の精神で被災地への継続支援を！②悲惨な福島第一原発の事故を踏まえ、今こそ脱原発の闘いを！③エルダー職場の劣悪な労働条件の改善を真剣に取り組もう！などの意見が出されました。総会に参加した高木徳雄さんから、大震災の液状化により家屋全壊の被害を被った状況報告と見舞金へのお礼の言葉がありました。最後に「脱原発社会を求める特別決議」を採択し、総会は成功裡に終了しました。新役員は下記の通り。

- 会長 田代多間、副会長 齋藤繁美、副会長 仲野博、
 - 事務長 堀切衛、事務次長 原良助
- 報告者：OB会長 田代多間

さようなら原発1000万人署名

●JR東労組OB会も積極的に運動に参加します。

- 期間 2011年6月～2012年2月まで
 - 提出先 内閣総理大臣 衆議院議長
- 原発の廃止を実現するために、1000万人の署名を集めて、政府と国会に提出します。1000万人の署名が集まれば、国も無視することはできません。政治を動かすのは私たちの声です。JR東労組も、この運動を積極的に担っていますので、各地本OB会にお問い合わせ下さい。



さようなら原発集会

- 日時 9月19日(月)敬老の日
午後1時から集会・終了後デモ行進
- 場所 東京・明治公園
JR千駄ヶ谷駅下車・徒歩10分
地下鉄大江戸線 国立競技場駅下車

「人間尊重企業」の心は 何処へ行ったのでしょうか
水戸地本・十連連闘区分会OB 上久保 完治
私はエルダー社員として水戸鉄道サービス(株)に所属し、水戸線の羽黒駅で勤務しています。
このたびの大震災当日は、午前六時五十分から午後七時五十分までの勤務でした。私は「締め切り」業務の出札窓口や自動券売機で扱った当日の販売データと現金の精査を十一時三十分を終え、午後一時から支社の監査を受けていました。監査は私と他二名のエルダー社員が携わり、支社から二人の社員が来ていました。
午後二時四十分頃、これまで経験したことのない大きな揺れが突然発生し、建物が揺れ、部屋に設置してあるポス機や簡易スライダマター、ビデオ監視機などが大きく揺れて倒れそうになりました。支社の社員は、それらの機器類を「押さえないこと」に指示しました。これだけの大地震ですから、私達に指示しました。これだけの大地震ですから、先ずは身の安全確保のため「駅前のロータリー広場に逃げて下さい」と言われるのかと思いきや、何と「機器類を守ることを指示されたのです。私は、これほどの大地震の時働いている人達の人命を守ることに優先されるべきだと思いました。
地震の被害は、駅の屋根が崩れ、ホームの笠石は線路上に落ち、ホームは三〇センチも段差が出来ていました。その後、私の所属する水戸鉄道サービス(株)との連絡は取れず、一週間後ようやく自宅待機の指示が出るまで私達は所定の時間で出勤してました。
一方、JR東労組は、人に冷たい会社とは違い、この異常時に即応して素早く色々な対応してくれました。支援物資の搬入や共済の手続きなど、組合員の立場に立つて取り組んでくれました。
JR発足時、「人間尊重企業を謳った優しい心は一体何処へ行ってしまったのでしょうか。あまりの変貌に危惧の念を抱いているのは、私だけでしょうか。いま会社が仕掛けている職場活動の規制や議事録確認の反古と無縁ではないと心配しています。」

私のエルダー職場を紹介します

このたびの大震災当日は、午前六時五十分から午後七時五十分までの勤務でした。私は「締め切り」業務の出札窓口や自動券売機で扱った当日の販売データと現金の精査を十一時三十分を終え、午後一時から支社の監査を受けていました。監査は私と他二名のエルダー社員が携わり、支社から二人の社員が来ていました。